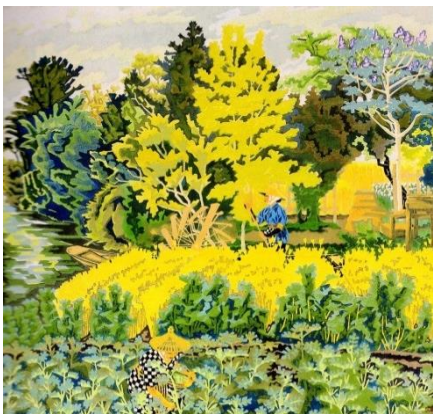


版画

近代日本の版画は、自画・自刻・自摺を旨とする「創作版画」と、浮世絵の伝統を継承した分業体制で制作された「新版画」の二つの流れで展開しました。収蔵する版画作品の大半は、愛媛出身の作家たちで占められていますが、彼らはおおむね前者の制作態度をとっています。また時代の経過とともに、木版以外の多様な技法による版画制作も試みられますが、当館の版画コレクションでもその多彩さが堪能できる内容になっています。

平塚運一や恩地孝四郎に学び、近代日本の創作版画史における重要作家の一人として挙げられる畦地梅太郎(1902-1999/宇和島市出身)は現在 300 点を超える作品を収蔵し当館の版画コレクションの核となっています。また、日本画から版画の道へと進んだ石崎重利(1901-1996/松山市出身)、木和村創爾郎(1900-1973/松山市出身)や、炭鉱をテーマにした連作が知られる大宮昇(1901-1973/松山市出身)、畦地に影響を受けた中尾義隆(1911-1994/宇和島市出身)らの作品をまとめて収蔵しています。さらに近年は、石山直司(1965- /新居浜市出身)など現在活躍中の愛媛出身作家の作品についても収集を進めています(※畦地梅太郎については別項参照)。

その他、城郭や庭園などの伝統美をモチーフにした木版画で評価される橋本興家(1899-1993)、繊細で幻想的な銅版技法で知られる吉田勝彦(1947-)は多数のコレクションを形成しています。



木和村創爾郎 KIWAMURA Sojiro
《潮来初夏》
1953(昭和28)年
多色木版/紙
76.0×80.0cm



吉田勝彦 YOSHIDA Katsuhiko
《小さな永遠》
1981(昭和56)年
メゾチント/紙
30.4×20.0cm



石山直司 ISHIYAMA Naoji
《SELF-RELIANCE》
1997(平成19)年
エッチング・アクアチント/紙
91.0×60.0cm

木和村創爾郎の著作権者を探しています。お心当たりのある方は当館まで御連絡いただけますようお願いいたします。